



祝

尾張津島天王祭の車楽舟行事
ユネスコ無形文化遺産 登録決定

祝 ユネスコ無形文化遺産

登録決定

津島市

決定

ユネスコ 無形文化遺産 登録決定!

「山・鉾・屋台行事」 のひんぎん

12月1日午前2時2分、エチオピアの首都、アディスアベバで行われていた政府間委員会において尾張津島天王祭の車楽舟行事を含む全国33件の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。津島市観光交流センターでは、登録決定の知らせを受け、万歳会を行いました。

会場には、津島市長、愛西市長、協賛会や津島神社の代表など関係者が集まり、登録決定を祝いました。



◀くす玉を割る代表者
(左から)津島市長、尾張津島天王祭協賛会会長、市江車保存会会長、愛西市市長

津島市長 日比一昭メッセージ

これまで祭りを支え、保存・継承に向けて御尽力いただきました地域の皆様深く感謝を申し上げますとともに、心よりお祝い申し上げます。
本登録を追い風としながら、今後とも豊かな歴史や文化の魅力を積極的に発信して地域の活性化を図るとともに、用具の補修をはじめ、保存・継承に向けた取組につきましても着実に進めてまいります。

喜びのコメントが届きました

尾張津島天王祭協賛会 三輪優会長メッセージ

600年近い歴史を受け継いだ尾張津島天王祭ですが、この先も何百年と続けていかななくてはなりません。今回ユネスコ無形文化遺産登録を受け、世界に認められるお祭りとなつたので、船の修理など、責任感もつて継承に向け取り組んでいきたいと思ひます。



おしえて!マッキー



マッキー



つし丸

同じ「山・鉾・屋台行事」といわれるほくたちのお祭りの仲間の「京都祇園祭の山鉾行事」と「日立風流物」はすでにユネスコ「無形文化遺産」に登録されていたんだ。全国にはまだまだ仲間がいるよ。今回提案されたのは、国指定重要無形民俗文化財となっている「山・鉾・屋台行事」33件。そのうち愛知県内には、5件が登録されているよ。

登録までにどんなことがあったの?

地域社会の安泰や災厄防除を願い、地域の人々が一体となり執り行う、各地域の文化の粋をこらした華やかな飾り付けを特徴とした祭礼行事のことだよ。

どうして「山・鉾・屋台行事」って?

2003年に採択された「無形文化遺産の保護に関する条約」に基づき、祭礼行事や伝統工芸技術などの分野について認知度を高め、保護していくことを目的とした制度だよ。現在、170カ国が参加、前回までで336件が代表一覧表に記載されているんだ。

そもそも

ユネスコ「無形文化遺産」って?

愛知県内の「山・鉾・屋台行事」

おわり つしまてん のうまつり だんじり ぶねぎょうじ 尾張津島天王祭の車楽舟行事	津島市・愛西市
ちりゅう だしぶんらく 知立の山車文楽とからくり	知立市
いぬやままつり やまぎょうじ 大山祭の車山行事	犬山市
かめざきおひまつり だしぎょうじ 亀崎潮干祭の山車行事	半田市
すなりまつり だんじり ぶねぎょうじ みよしなが 須成祭の車楽船行事と神葎流し	蟹江町

世界に認められるお祭りになっ
たよ! 国外からもたくさんの人
が遊びにきてくれるかな?



どんなところが評価されたの？

ポイント① 木工・漆・染物といった伝統的な工芸技術があつて、とても長い間受け継がれてきたよ。地域の自然環境を損なわない素材の利用など、祭り継続のために工夫されてきたことも評価のポイントになったよ。

ポイント② 年間を通じた祭りの準備や練習は、各地域で世代を超えた多くの人が関わらないとできないよね。「山・鉾・屋台行事」のお祭りは、みんなを結びつける重要な役割を果たしているんだね。

ポイント③ 「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産代表一覧への記載



は、無形文化遺産の保護・継承の事例としても、国際社会における保護の取組に大きく貢献するものだとして評価されたよ！

登録されたらどうなるの？

今回の登録は、このお祭りが大切な地域の宝で、さらに国際規模でも守っていかなくやならない世界のお祭りとして認められたことなんだ。

お祭りを継続していくのはとても大変。みんなで守っていくためには、どうしたらいいだろう？

まずは、尾張津島天王祭のことをよく知ってみよう！

提灯のついたまきわら舟。とっても幻想的だよ。お祭りは出店もあって、楽しいし、もっと遊んでいたいな。



つし丸くん、お祭りはまだまだ続くよ！朝祭に出かけてみよう。



津島5車の早替え



宵祭終了後、津島5車は朝祭に向けて夜通し作業を行い、まきわら舟から能人形や幕で飾られた車楽舟へと装いを新たにします。

能人形は毎年くじで決まります。

その中で、津島5車の当番車に限っては、毎年「高砂」の演目を出すことが決まっています。

能「高砂」あらすじ

古今集の仮名序に登場する「高砂の松」と「住吉の松」にまつわる話。

九州阿蘇神社の神主が播磨(今の兵庫県)の高砂の浦に立ち寄った際、出会った老夫婦は、じつは神様の化身だった。天下泰平や人々の長寿を祈って、平和な世の中を祝福する物語。

愛西市の市江車

津島の5車に加え、朝祭には愛西市東保町の住民が中心となって担う「市江車」が登場します。車楽舟の先頭をきつて進み、途中、10人の鉾持ちが天王川へ飛び込むのも、この市江車。

いろいろな地域
の人がかかわっ
ているんだね。



津島神社では…

鉾持ちたちは津島神社へと走ります。三番鉾は大鼓橋の結界を切つて神輿還御の道を開きます。



古式衣装を身に付け重要な役割を担っている児は、前々日の児打廻(ちごうちまわし)の行事から宵祭、朝祭、そして神輿還御のあとの児奏楽(ちごそらぐ)まで祭りごとにもあります。

きらびやかな
衣装をまとった
見



見どころがたくさんあるんだね。今度は、ほかの友だちも誘ってみよう。

お祭りはまだまだ続くよ。ほかの地域に似たお祭りがなにかどうかも、探してみると面白いかもね。



これからの課題

祭りの継承

尾張津島天王祭を継続していくためには、道具の管理・修理も不可欠です。国の補助も受けながら、船の修理を進めていくことを考えています。

担い手不足、道具の修理など、いろいろ課題はあるけれど、その時代の人々が工夫して解決してきたから、今このお祭りが残っているんだね。

これからは、ぼくたちが考える番！

未来のために

先人たちから受け継いできた過去があるからこそ、今があります。この地域には、天王祭だけではなく、大切に伝えられてきた文化財がたくさんあります。しかし、それらは、保存・継承という面で様々な困難な課題を抱えています。

そのままにしておいてはいずれ忘れ去られてしまったり、失ってしまうかもしれません。地域の文化にもう一度目を向けてみることで、今の自分たちのあり方を考えることになり、より良い未来へと繋がっていくのではないのでしょうか。

「山・鉾・屋台行事」ユネスコ無形文化遺産登録記念事業

祭りシンポジウム

参加
無料

日時 1月14日(土)午後1時30分～4時

場所 文化会館小ホール

内容 第1部／基調講演

演題「ユネスコ無形文化遺産条約体制の概念と目的」

講師 松浦晃一郎氏(中部大学学事顧問・前ユネスコ事務局長)

第2部／パネルディスカッション

パネリスト 大垣祭保存会 犬山祭保存会

会長 渡辺 彰氏 会長 石田芳弘氏

桑名石取祭保存会 尾張津島天王祭協賛会

会長 伊藤 守氏 会長 三輪 優氏

中部大学准教授・中部高等学術研究所

古澤礼太氏

ファシリテーター 白田信行氏(中日新聞社取締役名古屋本社編集局長)

主催 市・市教育委員会・学校法人中部大学・中部ESD拠点協議会

後援 中部運輸局・県教育委員会

問合 社会教育課生涯学習G 内線2281